

○各教科ごとの出題方針

国 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、国語で正確に理解し適切に表現する力をみることをねらいとした。出題に当たっては、中学生の実態にあった素材を広く求め、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。また、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力をみるようにした。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字の読み書き、助動詞の働き、行書の特徴に関して、その基礎的・基本的な力をみるとともに、手紙を書く際のきまりや敬語を正しく用いる力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的文章 天文部に初心者として入部した主人公が、周囲の人物との関わりの中で徐々に天文部の活動に前向きになっていく姿を描いた文章により、登場人物の心情や人物像に着目して文章の内容を理解する力や、文章中にある表現の効果について考える力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的文章 生物多様性について異なる視点から論じた二つの文章により、目的や必要に応じて文章の内容を要約したり要旨をとらえたりするとともに、文章の構成や展開、筆者の主張をとらえる力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 帝が求めた隠題を含む和歌について、人々が詠めない中、子どもが上手に詠んだ様子を描いた文章により、文語のきまりに関する基礎的・基本的な力をみるとともに、話の内容を的確にとらえる力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 ビブリオバトルへの参加を促すポスターについて検討する場面を設定し、資料の内容を理解する力やポスターの表現について考える力をみるとともに、根拠を明確にし、文章の構成を工夫して自分の考えを書く力をみるようにした。</p>
社 会	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界の様々な地域」に関しては、国の位置やプランテーション農業についての問いで知識及び技能を、アフリカの人口増加や南北問題についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、地域活性化の取り組みや地形図の読み取りについての問いで知識及び技能を、昼夜間人口比率や港湾別の輸出品目についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「古代から近世の歴史」に関しては、勘合貿易や豊臣秀吉の政策についての問いで知識及び技能を、遣唐使の派遣停止の理由やシルクロードが果たした役割についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「近代・現代の歴史」に関しては、日清戦争後の出来事や日中共同声明についての問いで知識及び技能を、ペリー来航や欧米の女性選挙権承認の背景についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと経済」に関しては、株式会社の仕組みについての問いで知識及び技能を、地方財政の仕組みや円高の影響についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと政治」に関しては、参議院議員選挙制度についての問いで知識及び技能を、立憲主義や参議院議員定数増加の背景についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと国際社会の諸課題」に関しては、パリ協定についての問いで知識及び技能を、日本の政府開発援助(ODA)や日本の資源・エネルギー問題の解決策についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、それらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、各領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」）をバランスよく出題し、数学の事象について統合的・発展的に考える力をみるように配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。 方程式の問題では、社会の事象を数学化し、数量の関係を捉え、数学的に表現・処理する力をみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形では、図形の性質などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。 円柱の容器に球を入れたときの水の高さや体積を求める問題では、多面的に考察する数学的な思考力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 一次関数の決定、関数 $y = ax^2$ の変域などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。 座標平面上の点を直線で分ける問題では、数学的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(4) データの活用 確率の問題では、確率の意味やその求め方に関する基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、樹形図などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。 箱ひげ図の問題では、四分位数と割合を用いて表現する力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能と、科学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、自然の事物・現象についての観察、実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などをみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「エネルギー」を柱とする領域 振り子の動きやエネルギーを調べる実験を通して、実験結果を解釈し、力学的エネルギーの保存について考察する力をみるようにした。また、電気の回路についての実験を通して、オームの法則をもとに考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 「粒子」を柱とする領域 質量保存の法則に関する実験を通して、化学反応の量的関係を化学反応式と関連付けて理解する力や、原子の性質と化学反応を関連付けて考察する力をみるようにした。また、密度に関する実験を通して、電離のようすを化学反応式で表す力や質量パーセント濃度と密度を関連付けて考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「生命」を柱とする領域 体細胞分裂を観察する実験を通して、実験に関する知識や、体細胞分裂を遺伝子や染色体と関連付けて考察する力をみるようにした。また、刺激に対するヒトの反応時間を調べる実験を通して、実験結果のデータを分析する力や、動物の行動についての基礎的・基本的な知識をみるようにした。</p> <p>(4) 「地球」を柱とする領域 地震に関する資料の分析を通して、大地の変化に関する基礎的・基本的な知識や、地震の伝わり方と防災を関連付けて考察する力をみるようにした。また、月の観察を通して、地球の運動と月の見え方についての規則性を見いだして考察する力をみるようにした。</p>

英 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、コミュニケーションを図るために必要な知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域</p> <p>【1】では、誕生日のプレゼントについての対話や買い物でのやり取り、留守番電話に残された予定の変更についてのメッセージ、ペットを飼うことについての対話を聞き、必要な情報を聞き取る力をみるようにした。</p> <p>(2) 「読むこと」の領域</p> <p>【2】Aでは、2人の中学生の対話を流れに即して理解し、内容を正確に読み取る力をみるようにした。</p> <p>【4】(1)～(5)では、4人の中学生が行った発表の内容や要点を、英文やグラフからの情報をもとに読み取る力をみるようにした。</p> <p>【5】では、中学3年生のスピーチの内容を流れに即して理解し、読み取った情報を整理する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「話すこと」、「書くこと」の領域</p> <p>【2】Bでは、ポスターを見ながら、それぞれの意見を交換する場面を設定し、必要な情報を理解し、英語で伝える力をみるようにした。</p> <p>【3】では、自分の意見を表現する場面を設定し、外国の文化を学ぶことのよさや地域のためにできる活動について、英語で伝える力をみるようにした。</p> <p>【4】(6)では、読み取った内容に基づいて、仕事を選ぶ際に重要であると思うことについて、英語で伝える力をみるようにした。</p>
--------	---

○各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)			
				A	B				
【一】	問一	(1)	26.4	○		問一(1)「創刊」、(3)「仏閣」については、語句の意味を理解できていないと思われる誤答が多かった。また、(2)「著」では、「目」の部分「目」としているものが多かった。読みの(5)「踏襲」では「ふしゅう」が多く見られた。			
		(2)	73.8	○					
		(3)	25.7	○					
		(4)	93.6	○					
		(5)	36.0	○					
	問二	(1)	手紙の書き方	84.5	○		問二は基本的な知識を問う問題であったが、概ねよくできていた。		
		(2)	敬語の用い方	89.4	○				
(3)		付属語の知識	80.6	○					
(4)		楷書と行書の特徴	50.0	○					
【二】	問一	登場人物「千春」の心情	82.2		○	全体として人物像や心情の読み取りはよくできていた。 問三は授業の場面においてまとめたことを想定したノートから、登場人物の心情について考える出題であった。(1)(3)では本文の表現をそのまま抜き出したことで、空欄の前後とのつながりに不備のあるものや助詞の使い方がおかしくなってしまうものが見られた。 文章全体を踏まえて読み取った内容を、適切な長さの文にまとめることが必要である。			
	問二	登場人物「那彩」の人物像	88.3		○				
	問三	(1)	登場人物「千春」の心情	3点	34.0		○		
				2点	19.8				
				1点	5.5				
	(2)	登場人物「千春」の心情	2点	67.3	○				
			1点	3.5					
(3)	登場人物「千春」の心情	3点	31.8	○					
		2点	23.7						
1点	7.5								
問四	表現の効果	53.3		○					
【三】	問一	(1)	内容の理解	3点	2.8	○			
				2点	23.2				
				1点	27.2				
	(2)	内容の理解	2点	13.7	○				
			1点	0.5					
	(3)	内容の理解	2点	73.7	○				
1点			2.2						
問二	論理の展開	56.6		○					
問三	(1)	複数文章の比較	71.2		○				
	(2)	複数文章を踏まえた趣旨の理解	54.9		○				
【四】	問一	文語のきまり	92.4	○		問三(1)(2)は登場人物の言動からその意図や内容を考える出題であったが、正答率は低かった。(3)では、和歌や短歌における「句」の理解ができていないと思われる誤答が見られた。 古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに気付かせることが重要である。			
	問二	主語の読み取り	55.0	○					
	問三	(1)	登場人物「具していく童部」の発言の意図	41.9	○				
				(2)	登場人物「木こる童」の発言の内容		3点	1.6	○
							2点	6.8	
1点						9.5			
(3)	和歌の理解	27.2	○						
(4)	本文趣旨の理解	43.9	○						
【五】	問一	情報の読み取り	43.0		○	問三は読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を書く出題であった。 問題文を丁寧に読んでいないために、問われていることに答えていない誤答が多く見受けられた。具体的にはポスターAとBのどちらが良いかを書いているものや読み手の設定を前提としていないもの、自分の感想を書いているものなどがあつた。 条件を踏まえたうえで、文章の構成や展開を工夫することが重要である。			
	問二	表現の工夫と効果	48.7		○				
	問三	論理の展開の工夫	6点	20.9	○				
			5点	11.6					
			4点	15.5					
			3点	7.2					
2点			5.9						
1点	3.2								
無解答	10.9								

【評価の観点】 A：知識・技能、B：思考・判断・表現

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項について、漢字の問題では、「創刊」（書き）、「仏閣」（書き）の正答率が低く、それぞれ26.4%、25.7%であった。
- ・漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、語彙を増やすことも併せて行うことが大切である。授業や学校生活を通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。
- ・乱雑な表記にならないためにも、書写の学習と関連付けることで**字形を整え、正確に書くことができるよう学習すること**に留意したい。
- ・敬語や手紙に関する知識については正答率が高かった。
- ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いには、例えば、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどが含まれる。**相手や場に応じた言葉遣いという観点から日常の言語活動を振り返り、これらの役割について理解することが重要である。**

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

- ・【三】問三は、複数の文章を比較して、その相違を捉える出題、【五】問三は、ビブリオバトルへの参加を促すためのポスターを作成するという想定のもと、根拠を明確にし、構成を工夫しながら自分の考えを述べる設問など、**中学校での学習や社会生活と結び付けた視点から、国語により論理的に思考し、表現する力をみるようにした。**

(2) 解答結果とその分析

- ・【三】問三（1）の正答率は71.2%であり、平素の授業で身に付けた力が活用できたと考えられる。**文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えるためには、一つの文章を読むだけでなく、複数の文章を比較しながら読むことが効果的である。**比較する際には、注目する部分を絞り込んだ上で、それらの特徴が文章全体の特徴にどのように関わっているのかを考えることが重要である。
- ・【五】問三の結果については、平均得点率47.0%（R4：48.5%）であり、無解答率は10.9%（R4：8.6%）であった。この問題では情報を整理しつつ、ポスターの表現が読み手に与える効果について自分の考えを書く必要がある。**文章を書く際は目的や意図、読み手の立場に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする必要がある。**また書いた後は、表現の効果などを確かめたり、読み手からの助言などを踏まえて自分の文章の良い点や改善点を見いだしたりする推敲の機会を確保したい。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「知識及び技能」の各指導事項においては、思考・判断し、表現することを通じて育成を図ることが必要である。また「知識及び技能」を、**社会生活における様々な場面で、主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」として習得することが大切である。**
- ② 「思考力、判断力、表現力」の各指導事項においては、引き続き育成を目指す資質・能力の明確化や適切な言語活動の設定が必要である。そのために単元計画の立案の際には、まず目標を明確にすることを意識し、指導と評価の一体化を図ることが大切である。また、**課題解決的な視点においては社会生活から広く題材を求め、設定した話題について話し合ったり書いたりする活動の中で「思考力、判断力、表現力」を養いたい。**
- ③ 学習の基盤となる、学びに向かう力を養うという側面において、多様な文章に接する機会を確保するためにも図書館活用を含めた**読書指導の充実**を図りたい。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深めることはもちろん、義務教育段階での学習内容や習得状況への理解を深めることで生徒の実態を正しく把握し、どのような資質・能力をつけるのかを明確にした授業の目標設定を行うことが大切である。**また、適切に評価を行うために、振り返りの機会を確保することが求められる。
- ② 課題解決型の授業の視点から適切に学習課題を設定し、**学習者が主体的に取り組むことのできる言語活動を重視した授業への工夫を行うことが大切である。**
- ③ 学習指導要領に示された各領域における授業時数を踏まえて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容を適切に指導することが必要である。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)
				A	B	
【1】	(1)	① 地域活性化の取り組み	61.9	○		(1)①全ての設問を通じて、3番目に高い正答率であった。 (1)②様々な事項について、各都道府県と大分県とを比較することは有効な学習方法である。 (1)③「療」「達」の誤字が散見された。「1960年代」に影響された「植民地支配から独立したため」という誤答が見られた。自らの解答が論理的なのかを考察する必要がある。 (1)④学習する際には、なぜこの地域にはそのような特色が見られるのだろうか等の問題意識を常に持ち、多面的・多角的に考察することが大切である。 (2)①全ての設問を通じて、最も高い正答率であった。 (2)④資料の読み取りではなく、フェアトレード等の知識を用いた解答が散見された。なお、各資料を個別に読み取るだけでなく、複数の資料を関連付けたり総合的に読み取る能力を身に付ける必要がある。
		② 昼夜間人口比率	39.3		○	
		③ アフリカの人口増加	2点 39.2 1点 5.2		○	
		④ アメリカの民族分布	45.6		○	
	(2)	① ブランテーション農業	74.1	○		
		② 港湾別の輸出品目	41.9		○	
		③ 食料自給率の推移	51.4		○	
		④ 南北問題	2点 36.7 1点 32.1		○	
【2】	(1)	中国の歴史書における日本の記述	30.6		○	(1)日頃の学習から、史料に触れておくことが大事である。 (2)出来事の名前や関連した人物を覚えるだけでなく、なぜそのような出来事が起きたのかという原因やその結果どうなったのかという影響等を常に意識することにより、出来事がつながり、より深く確実に理解することができる。 (3)人物名の学習に偏ることなく、出来事の性質を理解することも必要である。 (5)全ての設問を通じて、2番目に高い正答率であった。 (6)歴史を学習する際には、類似の出来事に関して、時期(時代)毎に比較しながら理解することが有効である。 (7)「泰平」を人名だと捉えた解答が散見された。史料はその内容と共に、どのような出来事と関連しているのかを意識して学習する必要がある。 (9)「第一次世界大戦」を読み取れていない解答が多かった。年号は覚えずとも、近現代の時代感覚(20世紀前半等)は必要である。また、選挙権等を学習する際に、世界の国々と日本を比較して理解することは有効である。 (11)全ての設問を通じて、3番目に低い正答率であった。「日中共同宣言」「日中平和友好条約」の誤答が見られた。用語に関しては、正確に覚える必要がある。
	(2)	遣唐使の派遣停止の理由	2点 22.9 1点 3.0		○	
	(3)	承久の乱	50.5	○		
	(4)	北条時宗	47.3	○		
	(5)	勘合貿易	71.6	○		
	(6)	豊臣秀吉の政策	52.4	○		
	(7)	ペリー来航	2点 18.6 1点 1.7		○	
	(8)	日清戦争後の出来事	49.0	○		
	(9)	欧米の女性選挙権承認の背景	2点 11.7 1点 31.6		○	
	(10)	柳条湖事件の発生場所	44.6	○		
	(11)	日中共同声明	13.4	○		
【3】	(1)	① 立憲主義	2点 17.3 1点 27.0		○	(1)①「三権分立」「国民主権」の内容との混同が見られた。「権力」や「権利」等の1つの言葉(概念)を曖昧な理解で終わらせないことが、以降の学習を有意義なものにする。 (1)②全ての設問を通じて、2番目に低い正答率であった。 (1)③「小選挙区比例代表並立制」の誤答が見られた。衆議院議員選挙と参議院議員選挙等、類似の用語に関しては、内容の共通点や相違点を意識して学習することも有効である。 (2)全ての設問を通じて、最も低い正答率であった。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の誤答が多かった。 (5)文章を読んだだけでは解答が難しい場合、図に表して考えてみる方法が考えられる。その際には、常日頃より仕組みを理解する等の汎用的な学習を行っておく必要がある。 (7)様々な用語に関して、内容だけでなく、多面的・多角的に捉えてプラス面・マイナス面まで考察・理解することが望ましい。
		② 参議院議員定数増加の背景	2点 6.9 1点 0.4		○	
		③ 参議院議員選挙制度	39.7	○		
	(2)	合理的配慮	7.0	○		
	(3)	地方財政の仕組み	56.7	○		
	(4)	株式会社の仕組み	47.1	○		
	(5)	円高の影響	36.0	○		
【4】	(1)	国の位置	46.6	○	(2)「松前」「薩摩」の誤答が見られた。四つの窓口をセットで覚えるだけでなく、地図を用いてそれぞれの相手との関係性まで含めて、幅広く理解する必要がある。 (3)世界の国々を学習する際は地図を用いた位置の把握と共に各国の特徴を結び付けながら理解することが有効である。 (4)地図記号は身に付いていると見受けられた。 (6)資料文中の特徴的な部分に気付き、その特徴と地図から読み取れる気候等の特徴を結び付ける様な、複数の資料を関連付けて総合させる思考力、判断力を身に付けることが望ましい。	
	(2)	鎖国体制下の四つの窓口	33.0	○		
	(3)	トルコの地理的特徴	23.5	○		
	(4)	地形図の読み取り	60.2	○		
	(5)	シルクロードが果たした役割	2点 25.4 1点 8.4			○
	(6)	日本の政府開発援助(ODA)	39.7	○		
【5】	(1)	イギリスの産業革命	51.4	○	(3)「京都議定書」「SDGs」の誤答が散見された。名称だけでなく、内容も同時に理解する必要がある。また、国際社会の諸課題については、各分野相互の有機的な関連を図ることが有効である。 (4)①資料は読み取れているように見受けられた。 (4)②資料で示されている「省エネを推進する」等に通じる解答が散見された。問題文や資料を適切に捉え、問いと解答が整合するように留意する必要がある。	
	(2)	資源産出量の国別割合	58.1	○		
	(3)	パリ協定	16.6	○		
	(4)	① 日本の発電の現状	59.7	○		
		② 日本の資源・エネルギー問題の解決策	2点 17.0 1点 1.4			○

【評価の観点】 A: 知識・技能、B: 思考・判断・表現

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど語句記述問題の平均得点率が41.5%と、全体平均(41.8%)とほぼ同等の結果となった。

【2】(11)と【4】(2)のような類似の語句がある問いの得点率は23.2%と低かった。

社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることが必要であるが、語句を覚えるだけでなく、**語句の意味について説明する学習**や**類似や差異を意識した学習**を行うことが効果的である。

- ・誤字による減点も見られた。教科書記載の語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。
- ・資料等の活用による技能を重視した問題は、平均得点率が56.5%と全体平均よりも高い結果となった。

【2】(10)のように、実際の正確な場所はわからなくても、「満州」事変に着目することで地図中に新たな情報を加えて考察したり、【5】(4)①のように、読み取った内容を文章と比較して考察したりと、資料を読み取ることに加え、活用や選択の場面を意識して出題している。

日頃の授業から、さまざまな資料に触れ、資料から読み取った内容について、「なぜそのような内容となるのか」という**因果関係について考察し、まとめる学習**を行うことが効果的である。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・中学校社会科では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことを目標としている。
- ・【1】(2)④のように、チョコレートの原料生産国における問題点の考察において、2つの資料から共通点を読み取り、論理的に説明する、思考、判断、表現する力を問う文章記述問題を9問出題している。
- ・【4】(6)のように、初見の資料から国々の特徴を読み取り、世界地図から読み取れる既習の特徴を関連させて考察する、資料を活用して思考、判断する力を問う記号選択問題を8問出題している。

(2) 解答結果とその分析

- ・文章記述問題の平均得点率は27.9%と全体平均よりも低い結果となった。
要因としては、問題文や資料を適切に読み取れていないことや、資料と関連した既習知識を引き出せていないこと、一方の資料のみについて解答していること、主語がないまたは論理的でない文章表現をしていることがあげられる。適切に表現するためには、**題意に沿ってどのような要素が必要かを判断する力と、既習知識と結び付け、筋道を立てて説明する論理的思考力**が必要である。
- ・記号選択問題の平均得点率は45.4%であり、全体平均よりも高い結果となり、学習の成果が見られた。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 単元全体を見通した授業を構想し、問題解決的な学習を行う必要がある。その際、生徒が「解決したい」「話し合いたい」と思えるような**学習課題やめあてを設定すること**、ICT等を活用しつつ協働的な学びを促進すること、そして**まとめや振り返りの充実を図ること**が大切である。
- ② 教科書を適切に活用しながら、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることが必要である。特に社会的事象について調べまとめる技能については、**情報を収集するのみならず、読み取りや解釈、まとめる活動を計画的・意図的に単元の中に位置付けること**が大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校教科書の内容について理解し、その内容を生徒がどれだけ身に付けているのかという実態を把握した上で、指導計画を作成することが必要である。また、中学校と高等学校の授業方法の連続性**を図る必要がある。
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、発問について考えたり、資料を読み取ったり、発表したりするなど、**思考力、判断力、表現力を育成する場面を設けること**が必要である。
- ③ 中学校での学習を踏まえ、各科目の特質と相互の関連性を考慮しながら、世界や日本の地理的・歴史的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明・議論したりすることを通して、**社会的な見方・考え方を働かせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めること**が大切である。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 ([]内は誤答例)			
				A	B				
【1】	(1)	①	96.9	○		①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。			
		②	82.9	○					
		③	81.4	○					
		④	64.3	○					
		⑤	75.9	○					
	(2)	二次方程式	75.1	○		因数分解を用いた計算の技能は概ね身に付いている。二次方程式を学ぶ際に、因数分解を用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が必要である。			
	(3)	平方根の大小	54.9	○		不等式を用いて大小関係を表し、平方根に具体的な数を代入しながら考えることが必要である。			
	(4)	関数 $y=ax^2$ の変域	30.8	○		関数 $y=ax^2$ の変域は高校の学習に直結する内容であるため、グラフから変域を考える学習活動が必要である。[a=4, b=-4]			
(5)	おうぎ形の面積	55.8	○		おうぎ形は円の一部であるため、 360° に対する中心角の大きさの割合から、面積を求められることが必要である。				
(6)	平面図形の作図	2点 35.0 1点 38.4	○		基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察する場面を設定することが必要である。				
【2】	(1)	関数 $y=ax^2$ の定数決定	76.7	○		(3)では、直線の傾きや切片を変化のようすを、ICT機器等を用いることで視覚的に捉え、考察することが重要である。 [y のつけ忘れ]			
	(2)	一次関数の決定	56.2	○					
	(3)	①	座標の読み取り	36.6	○				
		②	切片の決定	4.6			○		
【3】	(1)	①	場合の数	82.6	○	(1)では、大小2つのさいころを投げたときの出た目の和の樹形図を書くだけでなく、ゲームなど事象と関連付けて考察する学習活動が必要である。 (2)では、箱ひげ図についての基本的な用語を理解するだけでなく、箱ひげ図のよさを実感できるような学習活動が必要である。その際、総合的な学習の「整理・分析」と関連付けた教科横断的な学びが重要である。			
		②	確率	42.7			○		
	(2)	①	四分位範囲	65.2	○				
		②	ア	四分位数の値	71.4		○		
イ	箱ひげ図の読み取り		34.0		○				
【4】	(1)	ア	事柄を調べる方法や手順の説明	62.3	○	問題文の情報を正確に読み取る力が必要である。各単元において、日常生活と関連付けた題材を取り扱うような学習活動が求められる。例えば、体験したことを振り返り、課題を発見し解決するために、生徒自らが条件を設定し、課題解決する場面を設けることが重要である。 [(2)2時26分]			
		イ		51.5	○				
		ウ		31.4	○				
		エ		27.4	○				
(2)	方程式の利用	10.1		○					
【5】	(1)	円柱の体積	66.8	○		(2)②では、立体を様々な方向から見るなど、多面的に考察する学習活動を意図的に設定することが求められる。(2)①の過程を振り返り、球を更に追加したらどうなるかについて、生徒から出てきた素朴な疑問を教材とし、授業で考察する活動も必要である。 [πのつけ忘れ (2)①体積64cm ³ ②高さ8cm]			
	(2)	①	円柱と球の体積	22.4	○				
		②	高さ	三平方の定理	12.6			○	
			体積	円柱と球の体積	1.2			○	
【6】	(1)	三角形の相似の証明	3点 36.2 2点 5.8 1点 15.4 無記入 23.4	○		(1)の三角形の相似の証明においては、見通しを立てて、正しい用語を用いて、根拠を明確にした上で証明することが大切である。 (2)では、実際に正三角形を生徒に折り返させ、実測した長さや比と計算した値が等しいことを体験させるなどの学習活動も必要である。 [(1)根拠がなく「仮定より」を使用している]			
			(2)	①	相似な図形の性質		28.1	○	
				②	相似な三角形の線分の比		6.6		○

【評価の観点】 A：知識・技能 B：思考・判断・表現

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ① 「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順において、確実な定着を図ることが必要である。
- ② 「図形」については、線分の長さや立体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ③ 「関数」については、基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。日常生活や社会の事象に関する問題では、文章や表から必要な情報を読み取り、活用する学習活動が求められる。
- ④ 「データの活用」については、与えられた情報を目的に応じて整理し、データの意味や特徴の理解、データの見方を授業で扱い、生徒に考察させる学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

身近な事象を表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識及び技能を活用し、総合的に考察することを通して、数学的思考力、判断力、表現力等をみるようにした。

- 【2】(3)「座標平面上の点を直線で分ける問題」では、点の個数と直線の傾きに着目し、数学的に考察することで問題を解決する力をみるようにした。
- 【4】「コンサート会場で全員の入場が完了する時刻を求める問題」では、事象を数学化し、数量の関係を捉え、連立方程式を用いて問題を解決する力をみるようにした。
- 【5】「円柱に球を入れたときの水の高さや体積を求める問題」では、多面的な見方・考え方をすることで、2つの球の中心間を結んだ線分を斜辺とする直角三角形に着目し、問題を解決する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

- 【2】(3)②の正答率は4.6%であった。直線の傾きが一定であることに着目し、切片の変化に伴い、点の個数がどのように変化するかについて視覚的に考察できるかがポイントであった。
- 【4】(2)②の正答率は10.1%であった。問題文が長いこと、必要な条件を正確に読み取りながら数学化することができるかがポイントであった。社会の事象において、体験したことを振り返り、生徒自らが条件を設定したり、変更したりして、課題の解決を図ろうとする学習活動が求められる。
- 【5】は、容器に鉄球や水を入れる過程で、立体を多面的に見て考察する問題であった。(1)において、 π をつけ忘れた解答や、(2)①において、球の体積を引き忘れた解答があり、問題文や自分が導いた解答を見直す習慣が大切である。また(2)②においては、球の中心間を結ぶ線分を斜辺とする直角三角形に着目することを解決の糸口にしてほしい。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したり**することを通して、基礎・基本の定着が求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返す**ことが必要である。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、定義・定理・性質の理解を深めさせるとともに、なぜ成り立つのかといった、**論理的に考察し数学的に表現する力**を身に付けさせていくことが大切である。
- ③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、身の回りの具体的な事象の中にある二つの数量の依存関係に着目し、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を意図的に設けることが大切である。
- ④ 「資料の活用」については、目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが大切である。その際、データに基づいて批判的に考察できるようにすることが大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解**し、定着状況を把握した上で指導する必要がある。
- ② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識及び技能を習得しながら、**思考力、判断力、表現力を育成**することが大切である。生徒の発言を拾い上げながら、数学的な見方・考え方のよさを見出す力や得られた結果を基に批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。
- ③ 単元においては、**日常生活や社会の事象**と関連付け、それらを数理的に捉えることによって数学の問題として見出す態度や、**事象を数学化する力**を養い、**主体性を持って様々な問題解決に取り組む態度**を育成することが大切である。

理 科

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【1】	(1)	① 刺激の伝わり方	50.6		○	(1) ②実験結果から平均値を算出する力が求められる。授業での実験を通してデータ処理などの学習活動が求められる。 (2) ③地球の自転を考え計算する問題であり、基本的な計算力を身につける学習活動が求められる。 (3) ①元素記号の大文字小文字を区別して書いていない誤答が見られた。 (3) ②小数第一位までを解答する際に、小数第二位まで求めて四捨五入せず、切り捨てをする誤答が見られた。数値計算の計算値の表示に指示のある問題に対しては、指定された数値の桁数より一桁多く計算した後に、四捨五入をして算出する指導が必要である。 (4) 電力量を電圧と時間 (秒) の積で求めた誤答が多かった。電力量や電力の定義の理解が定着するような指導が求められる。	
		② 反応速度	72.6	○			
		③ 反射	74.0		○		
	(2)	① 玄武岩の特徴	52.3	○			
		② 自転・公転の向き・月の見え方の変化	29.8	○			
		③ 月の南中時刻	22.1		○		
	(3)	① 塩化ナトリウムの電離	49.7	○			
		② 質量パーセント濃度	35.4	○			
		③ 密度による浮き沈み	67.4		○		
	(4)	① 電力量と抵抗の関係	36.7	○			
		②消費 消費電力の大小関係	50.5	○			
		②消費 消費電力	8.7		○		
		③ 電力量	13.5		○		
【2】	(1)	大地の隆起	2点 26.9		○	(1) 「海面が下がる」という誤答が多かった。具体的事例と関連付けて、理解を伴った学習活動が求められる。 (2) プロットがない誤答が見られた。実験結果をふまえて、グラフの正しい作成方法を指導する必要がある。 (3) 実験の際には、見通しをもって実験を行い、その結果を分析する学習活動が求められる。 (4) 2つの実験結果を関連付けて考察する力が求められる。また、数学的な力も問われており、科学的な見方と数学的な技能を用いるような日々の学習活動が求められる。 (5) 化学変化における原子の性質を、原子や分子のモデルと関連付けながら正しく理解する学習活動が求められる。	
			1点 2.2				
			無解答 10.4				
	(2)	発生した気体の質量	2点 19.1		○		
			1点 8.2				
			無解答 13.2				
	(3)	① 化学変化での過不足	60.8	○			
			② 化学反応式	66.0	○		
	(4)	石灰石の純度	4.4		○		
	(5)	質量保存の法則と原子の性質	70.5		○		
【3】	(1)	単子葉類のなかま	35.1	○	(3) 体細胞分裂について問われており、顕微鏡を用いた観察の仕方を身につけさせたり、生徒自身のスケッチから分裂の順序を理解させたりする指導が求められる。 (5) 根の成長に対して、探究的な力が問われており、事象に対する分析と考察を行う学習活動が求められる。 (7) c 「胚」という誤答が多く見られた。重要な知識は単語として暗記するのではなく、理解を伴った知識定着が必要である。 (7) d 数学的な力が問われており、文意に沿って思考し、計算する力を育成する学習活動が求められる。 (8) 「核」という誤答が見られた。		
	(2)	染色液	69.7	○			
	(3)	細胞分裂の順序	82.1			○	
	(4)	染色体の本数	48.1	○			
	(5)	成長について	47.5			○	
	(6)	無性生殖	72.2	○			
	(7)	c 発生	62.4	○			
		d 分裂の回数	54.2			○	
(8)	DNA	80.7		○			
【4】	(1)	重力の作図	48.0	○	(2) 振り子の動きにおいて、摩擦力が働かない場合は、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解させる学習活動が求められる。また運動エネルギーと位置エネルギーが相互に入れ替わることに気付かせ、各状況を比較して理解できる学習活動が求められる。 (4) 力の向きに動かした距離の単位をcmで計算している誤答が多く見られた。		
	(2)	運動エネルギーの割合	21.2			○	
	(3)	糸を切った後の運動	41.8			○	
	(4)	仕事	26.9	○			
	(5)	振り子の周期と運動エネルギー	50.5			○	
	(6)	運動エネルギーのグラフ	61.2			○	
【5】	(1)	① 海溝型地震	72.6	○	(1) ①③地震発生の原理はプレートの動きによって説明できることを指導する必要がある。プレートの境界が必ず海底にあり、陸地にはないと考えている誤答もあった。 (1) ②音の大きさについて基本的な知識が身につけているかが問われており、理解を伴った知識定着が必要である。 (2) ③資料より必要なデータを抜き取り、算出する問題であり、数学的な技能を用いるような日々の学習活動が求められる。 (2) ④「緊急地震速報」について日常生活と関連付けて、資料から必要な情報を選んで計算する問題で、情報を整理し科学的に探究する力が求められる。		
			② 音の大きさ	79.3		○	
		③ 日本付近の地震	2点 22.6				
			1点 1.1				
	(2)	④ 緊急地震速報	無解答 11.0				
			① マグニチュード	62.1		○	
			② 震央の位置	81.0			○
			③ 地震発生時刻	46.1		○	
④ 緊急地震速報	18.5		○				

【評価の観点】

A : 知識・技能

B : 思考・判断・表現

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・ 語句の知識を問う問題では正答率は高かったが、【3】(7) c 「胚」や【3】(8) 「核」という誤答が見られ、曖昧なまま理解している生徒も多いため、図などを活用し丁寧に理解する学習活動が必要である。
- ・ 計算問題の定義に関する知識は定着ができていない状況が見受けられ正答率が低かった。【1】(4) 消費電力と電力量の計算は定義とは無関係に、問題文中に表示された数値を単に掛け算した誤答が多かった。また【4】(4) 手がした仕事の計算では、距離の単位が m でなく表示された cm のままで計算した誤答が多かった。このような定義の知識については定義の丁寧な説明と共に反復して身に付ける学習活動が必要である。
- ・ 【2】(2) の表データよりグラフ作成の技能を問う問題については正答率が低かった。自ら情報を整理して、結果をグラフにする技能については、正しい作成方法も含めて授業における教師の適切な指導の下での学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・ 【2】(5) 「化学変化」における原子と質量について正しく理解した上で、化学変化の説明を書かせる記述でなく、その過程を正確に表現できている選択肢を選ぶことを通して表現する力を見るようにした。
- ・ 【4】(5) 実験結果を比較することで、周期の時間とおもりの質量と運動エネルギーの関係について関連付けて考察させ、判断する力を見るようにした。
- ・ 【5】(2) ④資料の結果と 84km の場所について必要な情報を選んで整理して考察する問題であり、思考し判断する力をみるようにした。さらには緊急地震速報を題材に日常生活と関連付けて考察させた。

(2) 解答結果とその分析

- ・ 【2】(5) の正答率は 70.5% であった。正しい理解をもとに問題文の意味とイメージが関連付けられていた。引き続き、図と文章を活用した丁寧な理解を促す学習活動が求められる。
- ・ 【4】(5) の正答率は 50.5% であった。情報を比較して文章の意味も理解して選択できている生徒が半数程度であった。生徒自身が実験から得たデータを活用し、比較し関連付けるような学習活動が求められる。
- ・ 【5】(2) ④の正答率は 18.5% であった。文字情報と数値データが多く存在し、その中から適切なデータを選択し、計算するためには多くの思考や判断が伴う。そのため実験などにおいて、**多くのデータから必要な情報を適切に判断し取捨選択する学習活動**が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① **問題解決的な学習活動**を取り入れ、生徒の主体的な学びにつながる課題の設定や振り返りの充実を図り、**日常生活や社会との関連を意識させ、科学を学ぶことの意義や有用性を実感できる授業**が求められる。
- ② 実験結果をグラフ化する技能において、軸目盛の値の適切な設定やプロットの仕方など、**グラフの正しい作成方法を丁寧に指導する**必要がある。
- ③ 基礎的な計算力の育成に加え、**科学的な見方・考え方を用いて適切に計算式を立式するなどの思考力**を育成する必要がある。
- ④ 視覚的に捉えづらい分野(原子・分子、地球と宇宙など)は、**模型やICT(動画視聴含む)を活用してイメージしやすいように工夫する**必要がある。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容や教科の指導について理解し、高校入試の分析結果を参考に、入学時における生徒の状況・実態に即した**授業のねらいや身に付けたい力を明確にすることが必要**である。
- ② 理科の見方、考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、生徒に探究の過程を意識させ、**科学的に探究するための資質・能力を育成することが必要**である。
- ③ 教員とのやり取り、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を取り入れることが必要である。
- ④ 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることに触れ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるとともに理科への関心を高め、**生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切**である。

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【1】	A	1番 対話の内容に合うイラスト (もの)	97.1	○		対話の内容を正確に聞き取る力が必要である。2番では「飲み物代は支払う必要はない」という内容を聞き取ることができていなかった。	
		2番 対話の内容に合う語の選択 (値段)	16.2	○			
	B	1番 Whyで始まる疑問文に対する答え	44.7	○		何をたずねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。2番では一文中の2つの情報を聞き取る必要があり、正答率が低かった。	
		2番 What timeで始まる疑問文に対する答え	25.1	○			
		3番 Whichで始まる疑問文に対する答え	44.1		○		
	C	1番 対話の内容に対する聞き取り	60.2	○		対話の内容を理解し、複数の情報を整理する力が必要である。give upがstopと同じ意味で使われていると理解できず、正答率が低かった。	
		2番 対話の内容に対する聞き取り	38.4		○		
		3番 対話の要点に対する聞き取り	48.6		○		
	【2】	A	(1) 英文の読み取りと語の選択 (熟語)	61.4	○		対話の内容を正確に読み取る力が必要である。また基本的な語彙については、異なる場面の中で繰り返して活用することを通して正確な理解が求められる。spaceをspaseと書く答案が見られた。
(2) 英文の読み取りと語の選択 (語彙)			80.0	○			
(3) 下線部が示す内容			56.8	○			
(4) 英文の読み取りと語の抜き出し			66.3	○			
B		① 英文とポスターの読み取り	52.8	○		ポスターの内容を踏まえて、対話の流れを意識して正確に読み取る力が求められる。日頃から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定した学習活動を行うことが効果的である。	
		② 英文とポスターの読み取り	72.2	○			
		③ 英文とポスターの読み取り	60.4	○			
		④ 英文とポスターの読み取り	44.9	○			
【3】	A	外国の文化を学ぶことのよさ	5点	8.2	○	日常的话题について、自分の体験などを踏まえて具体的に説明する力が求められる。主語と動詞が一致していない解答が見られた。所有格、複数形のミスが見られた。cultureのつづりミスが見られた。(cuture, cultule)	
			4点	2.6			
			3点	27.8			
	B	地域のためにできる活動とその理由	5点	5.0	○	話題となっている内容を読み、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えを書く力が求められる。「町の紹介文」「自分のしたいこと」「2時間でできることを含んでいない」など問いの設定を理解していない解答が見られた。また、理由の副詞節を導くbecauseの使い方もおさえることが求められる。	
			4点	0.6			
			3点	14.7			
			無記入	29.1			
【4】	(1)	経験した順番	50.0		○	一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、書き手が伝えようとしている「要点」を捉えたり、論理の展開を押さえて読む力が求められる。日頃から様々なタイプやジャンルの英文に触れる機会が求められる。現在完了進行形の知識が定着できていない。makingをmakeingとつづる解答が見られた。	
	(2)	適語記述 (現在完了進行形)	36.9		○		
	(3)	英文の内容理解	58.6		○		
	(4)	英文の要点理解	60.6		○		
	(5)	グラフの内容	73.7		○		
	(5)	仕事を選ぶ際に重要であると思うこととその理由	5点	12.7	○		自分の意見を書く際には、読んだりして得た情報を基に、賛否や感想、意見やその理由を書かせるなどの学習活動の工夫が求められる。コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定する工夫が求められる。自分の意見を支える具体的な理由を書くことが求められる。
		4点	3.2				
		3点	28.6				
			無記入	26.1			
【5】	(1)	Taroの感情の変化	50.8		○	あらずじや中心となる事柄などを読み取る言語活動の工夫が求められる。	
	(2)	本文の要点理解	37.2		○		
	(3)	英文の内容理解 (英問英答)	2点	12.5	○	本文中から抜き出したような解答が見られた。(例) started practicing the dance 過去形になっていない解答も見られた。	
			1点	4.9			
	(4)	②	スピーチのメモの完成 (英文選択)	45.6		○	一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、物語の大切な部分などを正確に読み取る力が求められる。また、読んだ内容に対して、情報を分類したり、メモなどにまとめ、その内容を相手に伝え合ったりするなど統合的な学習活動を行うことが効果的である。
		③	スピーチのメモの完成 (英文選択)	33.9		○	
④		スピーチのメモの完成 (英文選択)	31.3		○		
⑤		スピーチのメモの完成 (英文選択)	35.0		○		

【評価の観点】 A: 知識・技能 B: 思考・判断・表現

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・「聞くこと」、「読むこと」については、聞いたり読んだりした内容について、対話や文章の内容を捉えることができる力は身につけている。また、グラフや図表の内容を捉える力も身につけている。
- ・基本的な文、文構造、文法事項においては、知識の理解にとどまらず、意味のある文脈の中で繰り返し活用できるようにする指導上の工夫が必要である。また、実際のコミュニケーションにおいて、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、内容を捉える言語活動を設定することも求められる。
- ・「書くこと」については、生徒が学習した語彙や文構造は、正確に書く力が必要である。自分の体験などを踏まえて具体的に説明したり、話題となっている内容について、自分の意見や考えを簡単な語句や文を用いて、論理的に書く力が必要である。
- ・実際のコミュニケーションの場面や相手に応じて、どのような表現を用いることが適切かを考えることが大切である。表現しようとすることを生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択させるなどの指導の工夫も求められる。また、言いたいことを別の表現で言い換えて表現する練習を行うなど指導の工夫も求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・【1】では、変更したスケジュールの内容を聞いて把握する、【4】では、経験した内容を時系列に並び替える、【5】では、場面毎の心情の変化を把握する等、話の要点や概要を捉える力が求められた。
- ・【3】B、【4】(5)では、「地域のためにできる活動とその理由」、「仕事を選ぶ際に重要であると思うこととその理由」について、読んだ内容に対しての自分の意見を論理的にまとめる力が求められた。

(2) 解答結果とその分析

- ・「聞くこと」「読むこと」においては、具体的な課題等を設定し、必要な情報または概要や要点などを聞いたり読んだりすることが求められる。また「読むこと」においては、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会を設定し、意味のまとまりごとに英文を捉えさせることが必要である。さらに、聞いたり読んだりした内容に対して、自分の考えを伝え合うなどの統合的な言語活動を工夫することが適切である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校では、付けたい力を明確にし、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動や理解したことを表現したり伝え合ったりするなどの活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を養うことが求められる。
- ② 単元など内容や時間のまとまりを見通して、単元で目指す生徒の具体的な姿や生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DO リストに基づいて明確にすることが求められる。
- ③ 生徒が英語を使う機会を増やし、生徒の英語による言語活動を中心とした授業を展開することが求められる。
- ④ 複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れ、4技能を総合的に育成する指導を行うことが求められる。
 - ・聞いたり読んだりして得た情報や知識等を、自らの体験や考えと結び付けて感想や賛否、またその理由についてペアやグループで伝え合う活動をさせる。
 - ・相手を意識して自分の考えや気持ち等を正しく伝えたり、それについての意見を述べ合ったりする活動をさせる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 年間、学期及び単元を見通して、CAN-DO リストに基づいて、「生徒が英語を使って何ができるようになるか」を設定することが求められる。
- ② 授業においてはコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動、複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れること、そしてそれらを評価するパフォーマンステスト等の学習評価を実施することが求められる。
- ③ 中学校との学びのつながりを意識するとともに、高等学校においても、コミュニケーションを行う上での支援や語彙・表現など段階に応じた配慮や指導により、コミュニケーションの目標を達成することが求められる。